

□Ando, Hisatsugu (ed.): **Hikobia, Supplement volume 1** Special issue in commemoration of Prof. Dr. H. Suzuki's retirement from Hiroshima University (ヒコビア別巻 1. 鈴木兵二博士退官記念論文集) 505 pp. 1981. ヒコビア会, 広島. ¥9,400. 1950年以来広島大学内のヒコビア会(広島植物研究会)で発刊され続けている Hikobia に、初めて B 5 版の大冊で別巻 1 が出版されて少し驚かされた。50数篇の各界の論文があり、その半分以上は欧文である。蘚苔の分類、細胞、形態、群落に関するもの、地衣、藻、コケシノブ、また多くの群落生態学の論文を含み、着生群落、海岸植生、河川敷、河辺林、湖沼生物、花粉分析などの研究は多彩である。国外の地域は台湾、南極、ニューギニア、アパラチャ山脈などをあつまっている。折込の図表も11葉ある。申込みは広大、理、植物学教室内ヒコビア会あて、振替広島3506、送料不要。

(津山 尚)

□宗屋 毅：**お茶のきた道** (NHK ブックス 389) 254 pp. 1981. 日本放送協会、東京. ¥750. 角山 栄「茶の世界史」と全く違って、中国の西双版纳と四川の灌県、北部タイとビルマ、それにアッサムとダージリンと言った三つの地域への紀行文から成っている。それもお茶に主眼を置いて普洱茶と辺茶すなわち磚茶、ミエンとラペソウというたべるお茶、それに紅茶と三つの大きな区別に従って述べるのである。製造の過程や飲用の経過についても、商業上の区分についても詳しく触れるので大変面白いし、また珍しい事態にもいろいろと立ち入るからなお更である。付録にした中国茶の茶類別一覧表は稿としてあるが最近に接しられる茶の一覧表としては最高のものであろう。それに緑茶、黄茶、黒茶、青茶、白茶及び紅茶と大別してあるのも、将来の研究に俟つところが大きい。また最北限として秋田県能代市外の檜山のお茶、高知・大豊町の碁石茶、愛媛・久万高原の釜炒茶なども珍しいものである。

(前川文夫)

□三井邦男：**シダ植物の孢子** 206 pp. 1982. 豊饒書館、東京. ¥2,000. 講座・現代植物学というシリーズの一つで、シダの孢子の形態学について教科書風、参考書風にまとめたものである。著者はシダの染色体と種分化の研究者であるが、ここ10年ほどは電子顕微鏡によるシダの孢子の観察を盛んに行なっている。その経験を基に、自身撮影の多数の顕微鏡写真を示しながら、孢子の花粉学を述べたもので、この方面の書物がほとんどなかったことから時宜に適した出版である。内容は初めに孢子の観察法、次いで孢子の形質についての説明すなわち形、数、大きさ、二面体型・四面体型・雑種の孢子など形態のこと、それから孢子壁、色と続いている。近ごろ走査電顕で表面の様子がよく観察できるようになり、切片で見る方法も進歩して、周皮も外膜も微細構造がよくわかるようになったので、孢子壁に関する記述が詳しい。次に孢子の構造の進化と題した著者の見解、終りに日本産シダ類各属の孢子の特徴を、分類順に多数の写真を入れて説明してある。

(伊藤 洋)